

平成 25 年度 近畿大学工学部情報学科 第三者評価会議 会議議事録

日時／場所：平成 25 年 5 月 10 日（金） 15 時 00 分～17 時 20 分 / 学科会議室（G251）

出席者：

委員長代理 広島県情報産業協会 副会長，(株)エスエイピー 代表取締役 貴田 透 様
委員 日本ユニシス (株) 篠田 健 様
教員 田中学科長，松富教授，谷崎教授，木村准教授，加島講師

議事次第：

1. 開会
田中学科長による挨拶と本会議の背景，目的と概要の説明を行った。
2. 協議事項等
 - (1) 教育プログラム説明
木村准教授により，カリキュラム，学生の到達度評価，卒業生の進路，FD 活動について説明が行われた。
 - (2) 学科施設見学
本学科の管理施設である教育支援システム室（G159），パソコン組立実習室（G169），企業情報システム演習室 1（G268）の見学とその運用方法について説明し，当該施設で行われる演習・実習授業を紹介した。
 - (3) 教育プログラムの評価
教育プログラムについての評価およびご意見を伺った。
3. 閉会

配付資料：

番号	内 容
1	第三者評価会議議事次第
2	配布資料一覧
3	教育プログラム説明資料
4	工学部学生便覧
5	情報学科・情報システム工学科 授業計画
6	基礎教育科目・特修プログラム 授業計画
7	IS'79
8	ISJ2001
9	J07 について
10	J07-IS
11	JABEE 認定基準（共通基準）
12	JABEE 認定基準（個別基準）
13	エンジニアリング・デザイン教育への対応
14	教育カリキュラムと産業界ニーズとマッチング状況
15	IT パスポート人材像
16	学部案内

教育プログラムの評価および意見：

(1) 教育プログラム全般の評価

- ・情報システムに関連する領域が網羅されており、よく考えられたプログラムである。
- ・実社会では、問題を見つけ解決できるデザイン能力のある人材が不足しているので、エンジニアリング・デザイン教育は必要である。
- ・講義における学生の達成度評価の目安を IT パスポート試験の出題レベルとしていることについては、特に問題は無い。

(2) 授業内容の評価

- ・実習型の教育は、エンジニアリング・デザイン教育に対して有効な方法である。
- ・卒業研究は、問題解決能力を鍛える上で重要である。
- ・演習の効果を上げるためにも、演習に必要な技術を修得した後の、卒業研究の実施は評価できる。
- ・企業ではチーム作りが重要である。卒業研究にチームで取り組む際、自律的に各々が動き、リーダーの大変さを各々が認識することも重要である。ただし、リーダーに任せきりにならないよう指導することが必要である。
- ・実際に企業で使用されているシステム（SAP 社の ERP システム）を使った実習で企業情報システムを学ぶことは、システム開発の実践的な学習方法として有効である。
- ・コンピュータの組立を授業に取り入れることは、コンピュータの理解を深めるために有効である。
- ・システム開発を実践的に学ぶため、ネットワーク環境の整備（ネットワークセキュリティに関する設定条件の緩和）を検討するべきである。

(3) 教育への提言

- ・良いカリキュラムだけでなく、学生の消化能力を考慮することが重要である。
- ・知識と技術の修得バランスが重要である。
- ・デザイン能力に関しては人材不足である。費用対便益を考慮した解を求めることは、今の学生の弱いところではないか。
- ・情報系で 20 年、30 年働けるような人材育成が重要である。
- ・演習授業はとても重要であるが、効果を上げるための工夫が必要である。
- ・社会責任について、倫理教育はとても重要である。地球的な視点、モラルなど、日本人には身につけにくいことであるが、観念を教えるしかない。長く仕事を続けるには、視野の広さ、モラルが重要であり、長い目で見るとこの点で差が出てくる。
- ・企業では、資格取得について、資格に関する能力の評価ではなく、取得するための努力の評価を行っている。したがって、知識の詰め込みだけを行い、資格取得を目指すような教育は、あまり意味がない。
- ・企業の第一線で活躍を続けるためには、テキストを読みこなし、自主学修するためのプロセスを知っていることが重要である。本を読む、人の話を聞ける等は最低限必要なこととして、学生は身につけておくべきである。

補記：

本委員会委員長の福井五郎様は、急用のため当日の会議に出席頂くことができなかつたため、代理として貴田透様にご出席頂いた。

以上

平成 25 年 5 月 30 日

確認者：田中 一基

記録者：加島 智子

議事録編集：木村 有寿